

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4091400038 | | |
| 法人名 | 有限会社 クロヤマ | | |
| 事業所名 | グループホーム むつみ | | |
| 所在地 | 〒811-1123 福岡県福岡市早良区内野1丁目24番42号 Tel 092-803-0515 | | |
| 自己評価作成日 | 令和02年09月20日 | 評価結果確定日 | 令和02年11月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 令和02年11月04日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いかなる時にも、入居者様に温かく優しく笑顔で接する事が出来るように職場の環境、雰囲気、働きやすさを最重点に置き、「むつみ」ひとつ屋根の下で家族として利用者様と職員で生活しております。世間のコロナ禍で大変ではありますが、感染対策を丁寧に行い、利用者様の外出が減る中でいかに施設内で楽しむことが出来るか日々利用者様、職員と話し合い、時折ご家族様や地域住民の方々からの貴重なアドバイスも頂き楽しく生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「むつみ」は、野山に囲まれて空気が澄んだ自然豊かな環境の中に、15年前に開設した定員9名のグループホームである。外回りの清掃や畑、花壇の手入れ、野菜の差し入れ、運営推進会議や避難訓練への参加等、地域の方の温かな協力で支えられている。健康な体作りは毎日の食事が基本と考え、畑で取れた野菜を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供している。医療面では、協力医による月2回の往診と緊急時の対応、薬剤師、介護職員との連携で、安心の医療体制が整っている。朝からしっかりと体操を行い、レクリエーション、回廊式廊下での歩行訓練が終わるとティータイムでほっと一息、この間、利用者との会話や笑い声が途切れず、和気藹々とした明るい雰囲気である。新たに施設長とケアマネを迎えてこの1年、職員が働きやすい職場作りを念頭に置いた取り組みで職員が定着し、優しい笑顔があふれる大家族のようなグループホーム「むつみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所に掲示し、朝の申し送り後に全員で唱和しています。職員全員はその理念を理解共有し、日常の業務で実践できるように努めています。新入社員にも最初の教育時、むつみの理念とその重要性を説明しています。 | 法人理念を掲示し、毎朝の申し送り時に夜勤者、日勤者、早出の職員が唱和をして理念を共有している。入職時にも、むつみの理念についてしっかりと説明している。職員は、利用者一人ひとりを尊重し、利用者の持てる力に応じた生活環境作りに取り組み、共に暮らすパートナーとして利用者に寄り添っている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常の散歩時に挨拶と世間話をする事で地域との交流を深める様になっています。避難訓練時も地域住民の方の参加も有り協力を得ています。 | 新型コロナ対策のために、地域の行事や活動への参加は減少している。近所の方が外回りの清掃や畑、花壇の世話を積極的に行ったり、自宅で取れた野菜の差し入れ、避難訓練、運営推進会議への参加等、日常的な交流があり、地域住民に支えられている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の中で認知症に関する理解や支援方法の意見交換を行い伝えていきます。さわら南よかとこネットに参加し、地域住民の方々やご家族様との交流を図っています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者様家族、地域住民、自治会長、民生委員、いきいき支援センター、市職員を招き運営推進会議を開催し、運営状況や入居者様状況を報告しています。高齢者にかかわるニュースや感染症対策、災害時の緊急避難方法など意見交換を行いサービス向上に努めています。 | 運営推進会議は、利用者や地域住民、地域代表、民生・児童委員、いきいき支援センター職員、行政(年1回)の参加を得て、2ヶ月毎に開催していたが、今年度は、新型コロナ対策のため、資料を郵送する形で行っている。参加委員からの意見や情報をサービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議へ行政担当職員及びいきいき支援センター職員を招きホームの実情を知って頂き、運営に関する質問や相談を通じ連携を図っています。 | 管理者は、行政担当窓口に対して、疑問点があれば尋ね、困難事例について相談し、事故報告を行う等して連携を図っている。運営推進会議に、いきいき支援センター職員が出席し、ホームの現状を説明し、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中、玄関や窓は開錠し自由に出入り出来る様にしています。外部・内部研修を通して職員全てが自覚し、身体拘束のない介護実践に取り組んでいます。身体拘束委員会を年4回開催しています。 | 年2回の身体拘束の職員研修が義務付けられたことを受け、職員会議の中で、身体拘束についての研修を行う等、今まで以上にしっかりと取り組んでいる。年4回、身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内での勉強会や外部研修の参加により、虐待防止関連法について学んでいます。日常、施設内において虐待の有無の実情を観察し見過ごされる事のないように注意しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見人制度を活用している利用者様が2名おられ、外部研修会を受講し、内部研修を通して制度について職員が学ぶ機会を設けています。成年後見人制度の勉強会の継続。 | 権利擁護の制度についてのパンフレットや資料を用意して、必要時には内容の説明を行い、関係機関と協力して、制度を活用できるよう支援している。職員には、内部、外部の研修で学ぶ機会を設け、制度の理解に努めている。現在、2名の利用者が制度を活用している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者様、ご家族様との面談で不安や疑問等を傾聴し、グループホームと他施設との違いや特色を説明し施設見学も行い、理解と納得を頂いた上で体験入所を進めています。重度化によるリスクと退去の際についても説明し契約を行っています。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会時や、運営推進会議、さわら南よかとこネットを通じて、意見を出しやすい場をつくり意見交換を行っています。その後、ミーティングにて検討し、運営に反映させています。 | 生活の中で、職員は利用者の希望や心配な事等の把握に努めている。家族については月1、2回の面会時や、遠方の家族には電話等で、意見や要望、気になる事等を聞き取り、ホーム運営に反映させている。また、利用者の笑顔を載せた「むつみだより」を送付し、利用者の暮らしぶりを伝えている。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 1回/月のミーティングや日常業務の中で職員の意見や提案を聞き、みんなで検討し運営に反映できるようにしています。施設長に対して個人的な悩みや相談、また職場での疑問や改善点を言いやすい、職場環境づくりを行っています。 | ほぼ全職員参加の職員会議を毎月1回18時から開催し、意見や要望、気になる事等が提案され、活発な意見交換が行われている。出された意見は検討し、出来るだけ運営に反映出来るように取り組んでいる。利用者一人ひとりについてのカンファレンス、勉強会も実施している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個人個人の努力や実績を把握した上で、賞与、介護処遇改善手当等公的制度も利用し、やりがいや各自が向上心をもって働けるよう職場環境や各種条件の整備に努めています。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員募集、採用に当たっては性別や年齢は制限しておらず、希望者全員面接しています。定年を繰り上げ、その能力を發揮していきいきと勤務出来るよう配慮しています。 | 施設長は、「働きやすい職場作り」に力を入れて取り組み、職員の特技や能力を活かした役割分担や、それぞれの事情に応じた勤務体制や希望休への配慮を行っている。また、職員の採用は、人柄や働く意欲を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 各種機関の研修会の参加や、施設内での勉強会を通じて人権教育や啓発活動に取り組んでいます。 | 人権についての研修を受講する機会を設け、利用者の人権を尊重する事の意識づけを行っている。法人理念に「利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、その思いを大切にします」と掲げ、毎朝唱和する事で人権教育に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの能力に応じた各種機関の研修を受ける機会を確保し、ケアの向上の実践に繋げていけるようにしています。 研修で得た知識を共有できるよう、後日勉強会を開催しています。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者や職員がサービスの質を向上させていくために同業者との情報交換や地域でのネットワーク事業に参加しています。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人様の発言はもとより日ごろの行動や何気ない会話の中で、利用者の気持ちを汲み取れるようにコミュニケーションを密にとるように努めています。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人様の生活歴や家族との関係を十分理解し家族様の要望をしっかりと把握し、関係づくりの構築に努めています。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様、ご家族様の要望を踏まえた上で、身体的、心理的状況を観察し、計画作成担当者を中心に話し合いを行い、その方に必要な支援に努めています。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族だから出来る事、職員だからできる事を協働で取り組み、共に暮らすパートナーとして日々の生活の中で喜怒哀楽を共にしている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月の状況報告を送付すると共に春・夏・秋・冬の「むつみだより」を年4回発行しています。 家族様の面会時には、気軽に話し合えるような雰囲気を作り、悩み事や相談、協力体制が築けるように心掛けています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 長い年月をかけて築き上げた人間関係を断ち切らない為に、手紙を出したり、贈り物が届いた時は、本人様から電話してもらうように支援をしています。 | 新型コロナ感染症対策のため、面会は制限している中でも、手紙や電話の取り次ぎを行う等、利用者の馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 各利用者様が孤立しないようにテーブルの配置や席替えを定期的に行っています。 利用者様が揃って参加できるような活動を支援しています。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 転居や入院により契約が終了した場合でもお見舞いや面会、ご家族様への電話等も行い、出来る限り関係を継続しています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で、一人ひとりの思いや意向の把握を心がけ、意思の疎通が困難な人に対しては言葉や表情の変化を見逃さないように努めています。 | 日々共に過ごす中で、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有して、日常の介護サービスに反映させている。また、意向表出の困難な利用者については、家族に相談したり、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から、思いを汲み取り、本人本位に検討している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族にこれまでの生活歴を聞いたり、以前携わっておられた介護支援専門員さんや相談員の方々にサービス利用の経過等を聞き、把握に努めています。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを理解した上で、日々変化する状態をその時々状況に適した過ごし方が出来るように心掛けています。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月ごとの介護計画の見直しや状況変化時に職員全員で情報交換や意見交換を行い、モニタリングや、カンファレンスを行っています。 入居者様に変化が見られた際には、その都度申し送り等で情報を共有し介護計画に反映しています。 | 利用者、家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスで、職員間の意見を出し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、3ヶ月毎に担当者によるモニタリングを行い、入・退院や状態変化があった場合には、その都度介護計画の見直しを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 排泄、食事、バイタル等個々に記録。実践、気づき、工夫を分かり易くしっかりと介護記録に記入し、毎月のカンファレンスで情報を共有しながら、次回の介護計画の見直しに反映させています。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々本人様やご家族様の状況に応じたプランを作成しています。ご家族様の状況により希望があれば職員が通院・同行したり、交通が不便な面会者に対しては送迎等の支援をするなど、柔軟に臨機応変に対応しています。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 入居者様が安心して楽しく地域で暮らせるよう運営推進会議やいきいき支援センターと協働し情報を共有するとともに、民生委員さんや地域住民の方々とは意見交換を行い、ネットワークを構築しながら利用できるように対応しています。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 連携医療機関による定期的な訪問診療があり、その都度状況報告を行い、医師からの指示を受けています。入居前の専門医療機関への通院も可能で家族と看護師、かかりつけ医との連携もとれるように支援しています。 | 入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。現在は、協力医療機関を主治医とする利用者がほとんどで、月2回の訪問診療時に利用者の状況を報告し、医師からの指示を受け、職員間で情報を共有している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の関わりの中で気になると事や異変があれば看護師に報告・相談をして、看護師とかかりつけ医が連携して、指示をもらうシステムを整えています。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者様が入院する際には、当施設の職員が付添い入院医療機関に情報提供を行い、主治医情報交換を行っています。退院時に備え、ご家族様とともに情報を共有しています。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 職員が出来る事、出来ない事の部分を明確にご家族様に説明しています。看取り、救急搬送のタイミングを事前に話し合い、決めておくようになっています。入居者様の状態、経緯は定期的に、また状態に応じて主治医、家族に連絡し連携をとっています。 | 入居時に、重度化や終末期について、本人、家族の希望を聴き取り、ホームで出来る事について説明を行っている。医療面での対応が必要になった時点で再度話し合い、「ちょっとでも楽に生活してもらいたい」という家族の意向等を受け、関係者で検討し、本人にとって最善の環境で過ごせる支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全ての職員が急変や、事故発生時に備え、初期対応や応急手当が出来るよう、講習会を行っています。 救命講習も受講し、AEDも設置し、いつでも的確に行動が起こせるようにしています。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行っています。うち1回は消防署員立ち合いで実施し、その後反省会を行い、指摘事項があった場合には速やかに対処しています。非常時に備え非常食、飲料水、非常用備品等備蓄しています。各種災害時マニュアルも作成社内展開しています。 | 年2回、昼夜想定避難訓練を実施し、(うち1回は消防署の参加あり)通報装置や消火器の使用法、避難経路、避難場所の確認を行い、職員が非常時に慌てないよう備えている。地域住民の参加もあり、地域との協力体制を築いている。また、非常時に備え、非常食、飲料水、カセットコンロ等を準備している。 | 夜間想定訓練を繰り返し行い、夜勤者が非常時に落ち着いて行動できるよう備えていく事が望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇等の精神面での配慮、排泄や失禁等の対応、羞恥心についても配慮しています。 個人情報の守秘義務の観点からシュレッダーの設置も行っております。 | 利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や申し送りの中で話し合い、言葉遣いや声の大きさに注意し、入浴や排泄の場面では、利用者の羞恥心やプライドに配慮したケアに努めている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、施設長が常に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 毎日の生活の会話の中から希望を聞いたり、表情を観察したり、意思の疎通が困難な方や妄想がある方にも出来るだけ本人が自己決定できるようなとりくみをしています。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調と気持ちを把握し、その人らしい暮らしを送るために職員と利用者様の信頼関係を築くとともに、職員の利用者様目線が重要ということを中心に置き支援しています。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人様にその日に着るものを選択して頂いたり、一緒に着替えを行っています。 入浴後、髪を乾かしセットする時は鏡を見ながらヘアスタイルに満足出来るよう支援しています。 2ヶ月に一度、訪問理容を利用して交流を図りながらおしゃれが出来るよう支援しています。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 四季折々の食材を使用 食事の際は、メニューの紹介と食材の説明を必ず行い自立度により刻み食やミキサー食を自力摂取出来るよう配慮し、楽しく食事が出来るような雰囲気作りを大切にしています。下膳や食器拭き等を職員と一緒にしています。 | 畑で収穫した季節の野菜や近所から差し入れされた野菜を使い、職員が交代で作る家庭的な美味しい料理を提供している。いりこの頭取りやもやしの根切り等、出来る事を手伝ってもらい、食事の前にメニューの紹介や食材の説明を必ず行う事で、食事への関心を促している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考え調理を行っています。食事摂取量をチェックし、好まれない物に対しては代替メニューにて提供しています。食事摂取量、水分補給量は毎回記録し、1か月に1回、体重測定を行っています。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアは自立されている方には声掛けし介助が必要な方は、洗面台に誘導し介助しています。必要に応じて歯科往診を利用し、口腔ケア、治療を受けています。義歯洗浄・消毒は夕食後毎日行っています。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握して声掛けによるトイレ誘導を行い、失禁のないように支援しています。可能な限りトイレで排泄できるように支援しています。日中は可能な限り布パンツの使用にも心掛けています。 | 職員は、利用者の排泄パターンを把握し、利用者が重度化しても、トイレで排泄することを基本とし、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、失敗のないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけオムツは使わず、パットで対応し、利用者の希望を聴きながらトイレ誘導を行う等、柔軟に対応している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自然排便が出来るよう食事の工夫をしたり、乳製品や牛乳などで便秘予防に対応しています。毎日の健康体操や施設内廊下歩行による予防にも取り組んでいます。長期の便秘には主治医に相談し指示を受け対応しています。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 1週間の入浴日は決めています。利用者様のその時の体調や気分でも柔軟に対応しています。入浴に拒否があった場合は無理強いせず、時間をずらしたり職員の交代等で対応しています。 | 利用者の希望やその日の心身の状態に配慮しながら週3回の入浴支援に取り組んでいる。また、入浴を拒否される利用者には、時間をずらしたり、職員が交代で声掛けしたり、翌日に入ってもらおう等、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様の生活習慣を考慮して、生活リズムに合わせた休息や仮眠をとって頂いています。寝具やエアコンでの室温調整にも気を配っています。就寝時間も無理強いせず本人様のリズムに合わせるよう努めています。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居時に服薬されている薬の説明をミーティング時に行い、薬の追加・変更等があった場合にも申し送りノートに記入し共有しています。薬の処方箋や薬の内容がすぐに確認できるように事務所にファイリングしています。服薬時には日付・名前の確認を声に出して行い、服薬チェック表を用い、誤薬・服薬忘れを防いでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食後の食器・トレー拭き、洗濯物干し、洗濯物たため、フロアの掃除機かけ等、それぞれの能力や生活歴に合わせた役割を分担し、やりがいを感じて頂けるよう支援しています。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | あんぜんめんを配慮しながら施設周辺を散歩したり歩行困難な方は車椅子を利用したりして気分転換を図っています。 スーパーに日用品の買い物や、季節に応じてドライブにも出かけたりしています。 | 新型コロナ感染症対策と利用者の高齢化で、遠出は難しくなってきたが、気候の良い時期には、近所の散歩や買い物、ドライブに出かけ、気分転換を図っている。また、歩行訓練の後に、テーブルをテラスに出してティータイムを楽しんでいる。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が出来る方に関しては、外出時の買い物時、本人様が支払いが出来るように支援しています。自己管理が難しい方に関しては、ご家族の同意のもと施設側で管理しています。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の希望があれば掛けて頂いています。また施設側からご家族様へ電話連絡した場合にも、本人様に取り次いだりもしています。年賀状や暑中お見舞いのハガキを職員と一緒に作成し、ご家族様と交流が図れるように支援しています。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた花や飾りつけで四季を感じて頂けるようにしています。 リビングからテラスへは自由に入出りができ、庭の散策や花壇の花や畑を五感で感じて頂いています。 | 広いテラスとリビングが繋がり、利用者は、庭に咲く季節の花や畑の野菜の成長を楽しみ、季節を五感で感じながら暮らせるホームである。室内には、季節毎の飾り物や利用者の写真を掲示し、アットホームな雰囲気のある共用空間である。また、整理整頓、清掃、換気が行き届き、清潔で気持ちよく過ごせる共用空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのソファにて気の合う者同士で談話されたりテレビ鑑賞されるようにしています。 天気の良い日はテラスにてコーヒータイムをのんびりと季節感を感じて頂いています。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | タンス、ソファ、生活用品や写真など馴染みのある物や思い出の品を持ってきて頂き、安心して過ごせるように工夫、支援しています。 | 入居時に、利用者や家族と話し合い、長年使い慣れた家具や身の回りの物、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、その方らしい居室に整え、利用者が安心して暮らせる環境整備に取り組んでいる。また、掃除が行き届き、換気にも気を配り、利用者が心地よく過ごす事が出来るよう支援している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日めくりカレンダーをめくったり、新聞や雑誌を自由に楽しんでいただけるように本棚を設けています。状況が変化し、混乱が生じた場合には、その都度話し合いを持ち、不安を取り除くように支援しています。 | | |